

普及活動情勢報告（令和元年 12 月分）

安芸農業振興センター農業改良普及課

「なす料理」動画の検討しました!! ～なす6次産業化チーム会～



動画撮影について検討しました

11月20日、JA高知県安芸地区で、なす6次産業化チーム会を開催し、12人が出席しました。

チーム会では、なす産地PRのためのホームページに掲載するなす料理の動画作りを検討しており、まずはプロのカメラマンを講師に迎え、撮影から編集方法までを習うことになりました。

参加者は、動画内容を共有するための「絵コンテ」や動画撮影に困惑気味でしたが、役割分担や日程の決定等について前向きな検討ができました。

農業改良普及課は、1月の動画講習会に向け、生産者との絵コンテ作りや機材の調達等講習会が円滑にできるように講師と密に連携を取ることができるよう支援します。

ナスの機能性を知っていますか? ～田野町産業まつりでのアンケート調査～



来場者へのアンケート調査中

11月23日、農業改良普及課は田野町産業まつりで「ナス機能性」の認知度についてアンケート調査を実施しました。

ナスの血圧降下作用やリラックス効果が学術的に明らかになったことを受け、この効果による今後の購買行動等の参考に実施したもので、30人の来場者に回答してもらいました。

ナスの機能性については、地元新聞紙への掲載前にもかかわらず知っている人は23%と思いのほか多く、この機能性により購買意欲が上がると答えた人は70%と、消費拡大に対する期待感が高いことが明らかになりました。

農業改良普及課は、今後もナスの消費拡大につながるように機能性の周知に努め、生産者の経営向上を支援します。

RACコードを駆使して病害虫を防除しよう ～安芸支部園芸部園芸研究会総合部会～



RACコードについて
説明する講師

11月29日、安芸集出荷場会議室にて安芸支部園芸部園芸研究会総合部会が開催され、生産者41人が出席しました。

農業改良普及課は、講師として環境農業推進課の病害虫専門技術員を招聘し、「農薬の作用機構分類（RAC）について」というテーマで勉強会を開催しました。

近年薬剤の感受性低下が産地で問題となっている背景もあり、生産者からは正しい農薬の使い方に関する多数の質問が寄せられ、薬剤の系統を意識した防除方法に繋がる勉強会となりました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、効果的な農薬の使い方による病害虫防除を啓発していきます。

さらなる高みを目指して!! ～土佐あき新施設園芸システム勉強会～



限界を超えていこう!!

土佐あき新施設園芸システム勉強会がデルフィージャパンの麻生氏を迎えて勉強会を開催し、生産者20人が参加しました。

勉強会では、アグリード土佐あきの環境・生育データと農業改良普及課が調査している管内の農家15戸の開花数・着果数データを見比べ、①日射量に応じた樹勢の維持、②厳寒期の温度管理は早朝加温（日の出前から1℃/hアップ）の重要性について説明がありました。

環境制御技術で地区内の限界収量を突破した生産者は、「生産者各自がハウス内の日射量、温度を確認することが重要」、「労働力の有無で、経営（収量目標）が異なる」という意見がありました。

農業改良普及課は、今後も環境・生育データを調査し、限界収量のさらなる突破を目指して栽培技術指導します。

新品目葉ニンニクの定着にむけて! ～中芸地区葉ニンニク現地検討会～



出荷にはもう少しかかるかな

12月4日、農業改良普及課は中芸地区の葉ニンニク栽培者と関係機関の9人で、生育状況の確認と今後の管理について現地巡回指導を行いました。

ほ場によっては葉色が淡くなっているところもあったことから、施肥管理について指導しました。

本格的な出荷は12月下旬以降の見込みで、生産者からは「年内の高単価時に出荷を終えるには9月中旬には播種しないといけない」という意見や、「追肥の種類やタイミングは?」といった質問が出され、参加者同士でも活発に情報交換をすることができました。

農業改良普及課は、今後も葉ニンニクが有利な補完品目として定着するように生産者間の栽培技術の高位平準化を目指して指導します。

ポンカンの収穫作業体験!! ～農福連携就労支援のための農作業体験会～



ポンカンの収穫楽しいね～♪

12月18日、室戸市吉良川のポンカン園において、「農福連携就労支援のための農作業体験会」として室戸市で初めてポンカンの収穫作業体験会を実施しました。この体験会は、室戸市障がい者等の就労に関する情報交換会の中で、あったかふれあいセンター側から提案があったもので、農業改良普及課室戸支所はJA高知県安芸地区果樹部及び農業会議とのマッチングを行いました。

参加した施設利用者等約30人は、園主から収穫方法を教わり、着色の進んだ大きい果実を収穫していました。

参加者からは「もっと体験を積みめば、より早く穫れそうだ」などといった声が聞かれました。また、園主からは「農業を通してみんなが生きがいを感じてくれてよかった。こういった取り組みを続けていきたい」との声が聞かれました。

農業改良普及課室戸支所は、取組が管内へ波及するよう今後も農福連携の取り組みを支援します。